

1

1 祭り
り
2 作業
3 高速

4 服
5 親族
6 地球

2

1 A エ
B イ
C ア
2 楽器

3 I エ
II おじいさん

3

4 イ
5 ぐぜり
6 イ

7 中
8 あ
ア
い
エ
う
イ
(8 完答)

1 バランス
2 かき
(2 完答)

3 ア
4 ④ ゆれ
⑤ かたむき

5 心
き
6 I こん
II はた

7 五
8 では
9 ウ

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

- 1 かんむりの部分を「発」と混同しないように気をつけよう。「祭」の部首は「しめす」、「発」の部首は「はつがしら」である。
- 2 「業」の形と画数に気をつけよう。一画目と二画目は垂直に、三画目と四画目は少し角度をつけて書く。総画数は十三画である。
- 3 「高」も「速」も、「口」を続け字にしないよう気をつけよう。「速」のしんによは、三画である。
- 4 「服」の右側の形に気をつけよう。五画目は内側に向かつてはね、六画目は垂直に下ろす。
- 5 「親族」は「親戚」ともいい、叔父、叔母、いとこなど血のつながりや婚姻関係で結びついた一族のことをさす。
- 6 「地」は右側の形に、「球」は七画目と八画目、九画目と十画目をそれぞれ続けて書かないように気をつけよう。

2

- 1 擬態語・擬声語をえらぶ問題は感覚的に理解できるようにしておきたい。どんな感じを表しているのか、具体的な例と結びつけて覚えていこう。(C)には小川のゆるやかに流れる様子を表現した「さらさら」がはいる。
- 2 ①を含む段落のはじめに「とうさんは、バイオリンやチェロをつくる仕事をしていた」とある。それらをまとめた表現をさがすと、本文最終段落にとうさんのことを「楽器をつくる人」と表現している部分が見つかる。
- 3 線部②の後続部分が理由になっている。Iは「枝や葉のすきまからこぼれおちる空」「歌うような川の流れ」「調子はずれの声で鳴くヤマバト」をまとめて表せることばはどれか、と考える。IIは◎の文から、だれが見守ってくれていると感じるのか、と考える。
- 4 「ふさわしくないもの」をえらぶことに注意しよう。「川の流れが、③のかけらをうかべて、キラキラ…」という表現から、水面に反射する光がイメージできたか。一文前には「枝や葉のすきまから、小さな空がこぼれおちる」とあるので、夜であるとは考えにくいだろう。
- 5 後続部分から、ヤマバトの声を聞いて「ぐせり」のことを教えてくれたおじいさんを思い出しているのだろうと考えられる。
- 6 問4と同様、「ふさわしくないもの」をえらぶことに注意しよう。パブロさんのことを「わたし」はどのような人物だと感じているか。「大きくて」「やわらかかった」という表現から、プラスの印象を読みとりたい。
- 7 なぜ「まばたきをわすれ」るのか。パブロさんのすばらしい音楽に、心を奪われているのである。「夢中」とは、ものごとくに熱中して我をわすれることである。
- 8 文脈に合った比喩表現を完成させる問題である。Ⅰの「流れ」ということばと結びつくのは「川」か「星」だと考えられるが、「星」を選んで「星の流れ」としてしまうと、Ⅴにはいることばがなくなってしまう。

3

- 1 ひとつ目の①の直後の一文が、補足の説明になっている。「からだの動きやかたむきを感じと」ることで何を「たもつ」のか。本文終わりから七行前に「からだのバランスをたもとうとするはたらきが…」とある。
- 2 まずは【②】をふくむ一文をいねいに読もう。空らんにはいるのは、「内耳から脳に伝えられる情報」であるとわかる。前の段落に、耳の役割として「からだの動きやかたむきを感じとって、脳に伝える」と書かれていた。
- 3 段落の冒頭にある接続詞を考える場合は、前の段落とのつながりを確認する必要がある。(③)の前には「内耳から伝えられた情報を脳が受け取って、からだに命令を出す」とあり、(③)の後には「内耳の器官の調子がくるってくる」「脳に正しい情報を伝えられなくなる」とあるので、逆接の接続詞である「ところが」がはいる。
- 4 これも問3と同様に前後のつながりをいねいに読んで、「乗りものに乗って、長い時間」感じる「不規則な」ものは何か、「はげしい」何を感じるのか? と考える。「ひらがな」という指示にも注意しよう。
- 5 本文中に難しいことばが出てきたときは、後続部分がその説明になっていることが多い。ここでも、直後の段落で「自律神経とは…」という形で説明がなされている。ぬき出す字数が多いので、本文に印を書きこみながら数えるとよいだろう。
- 6 本文のここまでの話題であった「乗りものよい」のしくみについてまとめる。(I)は、ずれのある情報を受け取ると脳はどうなるのか、と考えてさがそう。(II)は「全身の様々な」が線部⑦をふくむ段落の「全身のあらゆる」に、「コントロールできなくなり」が「調節できなくなる」に対応していることに気付いたか。
- 7 問題文をいねいに読んで、何を問われているのかを正確につかもう。ここで考えるのは「乗りものよいをふせぐ方法」である。「本文のここより後」「漢数字で」という指示にも注意して、本文に印をつけながら数えていこう。
- 8 ◎の文は「また」からはじまっているので、この文の直前には◎の文と同様に「乗りものによいやすい人」のことが書かれているはずである。線部⑦の後の段落から、「ところで、…」という形でこの話題に移っている。
- 9 それぞれ、本文とていねいに対応させていこう。アは、目と耳からの情報によってこんらんするのは内耳の器官ではなく脳なのでおかしい。イは、線部⑧に対して次の行に「乗りものになれるのが一番」とあるのでおかしい。ウは本文最終段落の内容と合っている。